

I. 活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成31年(2019年)1月1日)

	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
山形盆地(北部)	S*ランク	S*ランク
30年	0.002%-8% (0.002%-7.6%)	0.003%-8% (0.003%-7.6%)
50年	0.004%-10% (0.004%-12%)	0.005%-10% (0.005%-12%)
六日町(北部/ケース2)	Zランク	Zランク
経過率	0.004もしくはそれ以上	0.004-0.005もしくはそれ以上
三浦半島(主部/武山)	S*ランク	S*ランク
50年	9%-20% (9.46%-18%)	10%-20% (9.6%-18%)
糸魚川-静岡構造線(北部)	S*ランク	S*ランク
30年	0.008%-16% (0.008%-15.5%)	0.01%-16% (0.01%-15.7%)
100年	0.05%-40% (0.05%-44%)	0.06%-40% (0.06%-44%)
300年	0.6%-80% (0.6%-84%)	0.7%-80% (0.7%-84%)
糸魚川-静岡構造線(中北部)	S*ランク	S*ランク
30年	13%-30% (13.3%-31%)	14%-30% (13.9%-31%)

- Sランク(高い): 30年以内の地震発生確率が3%以上
- Aランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満
- Zランク: 30年以内の地震発生確率が0.1%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)算定基準日における地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記する。

	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
糸魚川-静岡構造線(中南部)	S*ランク	S*ランク
30年	0.8%-8% (0.8%-8.3%)	1%-9% (1.0%-8.6%)
50年	1%-10% (1.48%-14%)	2%-10% (1.7%-14%)
300年	20%-60% (19%-64%)	20%-70% (21%-65%)
濃尾(主部/梅原)	Zランク	Zランク
経過率	0.008-0.009	0.009
穴甲-淡路島(主部/淡路島西岸)	Zランク	Zランク
経過率	0.009-0.01	0.01
宍道(鹿島)(ケース1)	Zランク	Zランク
100年	ほぼ0%-0.01%	ほぼ0%-0.02%
日奈久(八代海)	S*ランク	S*ランク
経過率	0.1-1.5	0.1-1.6
山崎(主部/南東部)	Zランク	Zランク
100年	0.002%-0.05%	0.003%-0.05%

※活断層評価備考

- ・ここに掲載しているものは、再計算等の結果、発生確率値の表記に変更のあったものである。
- ・確率値は、有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%の場合は2桁で記述する。
- ・括弧「()」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁(または2桁)で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

II. 海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成31年(2019年)1月1日)

	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
千島海溝		III*ランク
超巨大地震(17世紀型) (M8.8程度以上)		
平均発生間隔	約340年~380年	
経過率	1.00~1.18	1.01~1.18
10年	2%~10%	2%~10%
20年	5%~30%	5%~30%
30年	7%~40%	7%~40%
40年	9%~50%	9%~50%
50年	10%~60%	10%~60%
100年	20%~80%	20%~80%
300年	40%~90%程度以上	40%~90%程度以上
十勝沖(M8.0~M8.6程度)		IIランク
平均発生間隔	80.3年	
ばらつきα	0.38	
経過率	0.18	0.19
10年	0.07%	0.1%
20年	2%	2%
30年	8% (7.6%)	9% (8.5%)
40年	20%程度	20%程度
50年	30%程度 (34%)	40%程度 (36%)
100年	90%程度	90%程度
300年	90%程度以上	90%程度以上
根室沖(M7.8~M8.5程度)		III*ランク
平均発生間隔	65.1年	
ばらつきα	0.22	
経過率	0.68	0.70
10年	20%程度	20%程度
20年	50%程度	50%程度
30年	80%程度	80%程度
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度以上	90%程度以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

- IIIランク(高い): 30年以内の地震発生確率が26%以上
- IIランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が3~26%未満
- Iランク: 30年以内の地震発生確率が3%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)算定基準日における地震後経過率が0.7以上である海溝型地震については、ランクに「*」を付記する。

日本海溝

「三陸沖から房総沖にかけての地震活動の長期評価(第二版)」を改訂し、新たに「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」を公表したので、そちらを参照してください。

	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
相模トラフ		IIランク
次のM8クラス発生間隔	180-590年	
経過率	0.16-0.52	0.16-0.53
10年	ほぼ0%-2%	ほぼ0%-2%
20年	ほぼ0%-3%	ほぼ0%-3%
30年	ほぼ0%-5% (ほぼ0%-5.45%)	ほぼ0%-6% (ほぼ0%-5.5%)
40年	ほぼ0%-8%	ほぼ0%-8%
50年	ほぼ0%-10%	ほぼ0%-10%
100年	ほぼ0%-20%	ほぼ0%-20%
300年	ほぼ0%-80%	ほぼ0%-80%

	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
南海トラフ		III*ランク
M8~M9クラス平均発生間隔	88.2年	
ばらつきα	0.20-0.24	
経過率	0.82	0.83
10年	30%程度	30%程度
20年	50%程度 (50%-54%)	50%-60% (51%-56%)
30年	70%-80%	70%-80%
40年	80%-90%	80%-90%
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

日本海東縁部	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
北海道北西沖 (M7.8程度)		I ランク
平均発生間隔	3900年程度	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.54	0.54
10年	0.002%-0.04%	0.002%-0.04%
20年	0.004%-0.07%	0.004%-0.07%
30年	0.006%-0.1%	0.006%-0.1%
40年	0.008%-0.2%	0.008%-0.2%
50年	0.01%-0.2%	0.01%-0.2%
100年	0.03%-0.4%	0.03%-0.4%
300年	0.2%-2%	0.2%-2%
北海道西沖 (M7.5前後)		I ランク
平均発生間隔	1400-3900年程度	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.06	0.02-0.06
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%	ほぼ0%
北海道南西沖 (M7.8前後)		I ランク
平均発生間隔	500-1400年程度	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-4%	ほぼ0%-4%

日本海東縁部	2018年1月1日時点の評価	2019年1月1日時点の評価
青森県西方沖 (M7.7前後)		I ランク
平均発生間隔	500-1400年程度	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.07	0.03-0.07
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-6%	ほぼ0%-6%
山形県沖 (M7.7前後)		I ランク
平均発生間隔	1000年程度以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.18以下	0.19以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-0.1%	ほぼ0%-0.1%
新潟県北部沖 (M7.5前後)		I ランク
平均発生間隔	1000年程度以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.05以下	0.05以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%	ほぼ0%

※海溝型地震備考

- ・ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全てである。
- ・水色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったものである。
- ・確率値は、有効数字1桁で記述している。
- ・括弧「()」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。